

県立高等学校の適正配置に関する検討に係る
ヒアリング

資 料

平成29年11月30日

工業科	1
家庭科	3
芸術科 (コースを含む)	5

工業科（全日制課程）の現状等について

1 工業科（全日制）の現状と課題について
 (1) 県内における学科の設置状況について

学校名	学科名	定員（H29 入学者数）	特色等
奈良朱雀	機械工学	74名(74名)	機械技術の基本を学び、ものづくりの体験を通して技術のスペシャリスト養成を目指す。
	建築工学	37名(37名)	あらゆる建築物の構造・計画方法の基本を学び、製図・実験・実習を通して建築技術者の養成を目指す。インターンシップに全員が参加。
	情報工学	37名(37名)	ITはもとより、プログラムを中心に学び、ロボット制御・マルチメディア・ネットワーク技術のスペシャリスト養成を目指す。
王寺工業	機械工学	74名(74名)	「ものづくり」を基本に、機械電気・電子・制御に関する知識や技術を基礎から学べる。また、実践を重視した指導で、柔軟な発想力と対応力ある技術者を育成する。
	電気工学	74名(74名)	電気設備に関する「全て」を学べる。電気工学を中心に、電子工学、メカトロニクス、自動制御技術など電気全般について学べる。
	情報電子工学	74名(74名)	情報技術の他、機械、電気、電子、社会工学、人間工学など多岐にわたる学習を展開する。コンピュータシステムの組込み技術、マイコン制御やネットワーク技術のスペシャリストを目指す。
御所実業	機械工学	74名(74名)	機械一般に対する知識と技術を習得させ、製造業関連の産業分野で活躍する人材を養成する。社会人講師を多く起用し実践的技術取得を目指す。また、自動車関係でデュアルシステムを試行中。
	電気工学	37名(37名)	電気全般にわたって総合的に学び、社会のあらゆる分野の電気関連業種に対応できる技術者を養成している。特に制御に力を入れている。
	薬品科学	37名(37名)	全国で4校に設置。薬品企業とのコラボ商品の開発・生薬の研究やバイターンシップを計画中である。
	都市工学	37名(37名)	土木や都市工学に関する知識と技術を習得させ、建設業、土木行政などの業務に従事する技術者を養成を目指す。公務員へも進んでいる。
吉野	建築工学	111名 (44名)	製図や木工実習などを通じて、建築に関する知識、技術・技能の基礎・基本を学ぶ。地域の産業に貢献する人材の育成を目的とした吉野実業学校の伝統と実績を受け継ぎながら現在に至っている。
	土木工学		土木技術者としての基礎・基本的な知識と技術を習得し、実験・実習を通して協調性と積極的な姿勢を養うとともに、社会の一員として意欲的・実践的な態度を身に付けた土木技術者を育てる。また、土木技術者の国家資格を取得する。

※定員は、1学年あたりの数。

※吉野高校は、建築工学・土木工学・森林科学と一括募集のため、3学科合計数を記載。

(2) 卒業後の進路について

学 校 名	卒業者数	就職	進学	その他
奈良朱雀	1 4 2	8 8	5 4	0
王寺工業	2 1 0	1 7 6	3 4	0
御所実業	1 6 9	1 1 6	5 2	1
吉野	2 2	1 4	8	0

(就職)

- ①求人数がかなりあり（有効求人倍率5倍以上）好調で、ほとんどの学校で100%の内定率である。
- ②離職率が低いのが工業科の特色ではあるが、学科によってばらつきがある。ただ、他府県の工業科より離職率がやや高い傾向にある
- ③建設産業界は人材が不足しており、ここ数年は企業からの求人が増えている。ただ、建設系学科の専門性を生かして就職を希望する者が少なくなっている。
- ④企業はどうしても機械に触れる人材を望む。食品や薬品等の製造業でも製造ラインの機械のメンテができる人材という要望が多い。

(進学)

- ①ほとんどが、指定校・公募推薦・スポーツ推薦・AO入試を利用した進学である。
- ②工学部や自動車整備・コンピュータ系専門学校など専攻学科関連への進学が多いが、他方面（スポーツ推薦や、理美容、医療系）への進学者もいる。
- ③指定校推薦以外や国公立にチャレンジできる生徒の育成が課題である。

(3) その他

- ①奈良県の産業をどうするのか、広い視野に立った観点から、工業系高校の数や配置、在り方を検討する必要がある。
- ②産業人として必要な資質である、「知識・技能・態度」をバランスよく育成することが重要であり、そのための施設・設備の充実や教員の資質向上が必要である。
- ③多様な発達課題をもった生徒が増加傾向に対応した安全確保の徹底や、教育内容の充実のための様々な関係機関との連携の充実が求められており、そのためには教員定数の見直しなど指導スタッフの充実が必要である。
- ④他府県に比べ大きな企業が少なく、県内の中小企業と連携して県内企業が必要とする技術者を育てることも役割ではないか。

2 工業科（全日制課程）の今後の在り方について

- ①奈良県の産業をどうするのか、広い視野に立った観点から、工業系高校の数や配置、在り方を検討する必要がある。（再掲）
- ②総論的には現在の学科編成でよいと考える。学科を細分化することは、かえって日々進歩する技術に学科内容がついていけなくなる可能性もある。スペシャリスト養成のためにも、まずは共通する基礎な事項をしっかり学ばせることが大切と考える。
- ③すでに(3)の④でも書いたように、地元で学び地元企業に就職する「地学地就」の推進。全工長が取り組んでいる「人材は工業高校にあり」プロジェクトの推進。
- ④さらに学びたい生徒のための、専攻科や工業大学校の設置と工業高校との連携。

家庭科の現状等について

1 家庭科の現状

(1) 学科の設置状況

学校名	学科名	コース名	定員 (H29入学者数)	特色等
磯城野	フードデザイン科	シェフコース	20名 (20名)	県内で唯一、全国で数少ない厚生労働省指定の調理師養成施設で、卒業と同時に調理師免許が取得できる。 (平成19年3月認可)
		パティシエコース	20名 (20名)	県内で唯一、全国で公立学校初の厚生労働省指定の製菓衛生師養成施設で、卒業と同時に製菓衛生師国家試験の受験資格が得られる。(平成19年3月認可)
	ライフデザイン科	/	40名 (40名)	家庭科技術検定や色彩検定など様々な資格取得を目指す。
	ヒューマンライフ科	/	40名 (40名)	卒業と同時に介護職員初任者研修の修了証書が取得できる。

※定員は、1学年あたりの定員

(2) 教育課程について

専門的な知識・技術の習得のために「学校設定科目」を開設している。

学科名	科目名	単位数	コース	科目の主な内容
フード デザイン科	調理理論	6	シェフコース	日本料理・西洋料理・中国料理についての理論
	調理実習	10	シェフコース	日本料理・西洋料理・中国料理等の実習
	総合調理実習	4	シェフコース	集団調理実習・接客サービス・フードビジネスについて
	製菓理論	6	パティシエコース	洋菓子・製パン・和菓子についての理論
	製菓実習	13	パティシエコース	洋菓子・製パン・和菓子等の実習
	衛生法規	1	パティシエコース	製菓衛生師法及び関連する法令について
	社会	2	パティシエコース	製菓の歴史・経営計画の立て方
ヒューマン ライフ科	福祉実習	4		介護技術についての理論と実習
	保育実習	4		保育技術等についての実習
	総合実習	2		保育・福祉の学習についてのまとめ

(3) 生徒の進路状況（平成29年3月卒業生）

フードデザイン科 39名中 就職12名、進学22名、その他5名
ライフデザイン科 36名中 就職8名、進学26名、その他2名
ヒューマンライフ科 40名中 就職14名、進学24名、その他2名

(4) 各学科の現状

〈フードデザイン科〉

- ・奈良の特産品である三輪そうめんを生地に練り込んだ「大仏の手クッキー」を生徒たちが考案した。それを菓子業者「奈良祥樂」が商品化し、現在近鉄奈良駅構内及び道の駅「かつらぎ」で販売されている。

〈ライフデザイン科〉

- ・各種コンテストに多数応募をしており、優秀賞をいただくなど成果を収めている。
- ・毎年、1月に2年生と3年生による作品発表会（ファッションショー）を実施している。作品のデザインやショーの構成も生徒たちが考えており、参観していただいている専門学校の先生方からも高い評価を得ている。

〈ヒューマンライフ科〉

- ・資格取得のために、3年生で3日間の施設実習、2年生で2日間の同行訪問実習を行っている。
- ・夏休みに1年生で1人3日間、2年生で1人5日間の施設でのボランティアを行っている。また、地域でのボランティア活動にも積極的に参加し、地域との連携も深めている。

(5) その他

- ・各学科とも各種コンテストやコンクールに応募し、全国大会に出場するなど優秀な成績を収めている。
- ・家庭クラブ員等が中心となって小物作りの講習会を行ったり、交通安全の啓発活動などを行うなど地域との連携を深めている。
- ・学校内においては、農業科が作った農産物を調理実習で使ったり、刈り取った羊の毛を利用してフェルトの小物をつくるなどして学科間連携を行っている。

2 家庭科の今後の在り方

進路状況から、就職に関してはそれぞれの科の特性を生かした就職先（フードデザイン科は飲食関係、ライフデザイン科は縫製関係、ヒューマンライフ科は介護関係）に就職し、即戦力としての評価をいただいている。また、進学については、それぞれの科で学んだ専門知識や技術を基に、より高い知識・技術を身に付けるために大学または専門学校を目指す生徒が増えている。

これからも、それぞれの科の特色を踏まえながら卒業後に生かしていける専門的な知識や技術を身に付けさせたいと考える。

芸術科（コースを含む）の現状等について

I 音楽科

1 音楽科の現状と課題について

(1) 県内における学科の設置状況について

学校名	学科名	定員（H29 入学者数）	特色
高 円	音楽科	35名 (35名)	一対一の実技レッスンを行うとともに、少人数・グループ授業やソルフェージュ等を行っている。

※定員は、1学年あたりの定員

(2) 卒業後の進路について 平成29年3月卒業生

学校名	学科名	卒業生	進学者	就職者	その他
高 円	音楽科	35名	32名	1名	2名

保育系大学・短大を含む一般の大学等へ進学する者も一部いるが、大半は音楽系大学等へ進学している。また、大学等の卒業後も音楽活動を行っており、近年は著名音楽家として活躍したり、中学校・高等学校の教員として採用されたりする実績もある。

(3) その他

- ・生徒募集に関わっては、例年35名程度の受検希望者がいる。
- ・学校では多岐にわたる専門的な個人レッスンも行っている。
- ・音楽科生徒によるホール演奏会や定期演奏会、卒業演奏会を開催するとともに、講師先生による各専攻別の公開レッスンを毎年実施している。
- ・他府県においても、音楽学科を設置する高等学校は多くある。

2 音楽科の今後の在り方について

[今後の在り方]

幼少期から音楽に関する専門的な経験を積む者は多くおり、その技能を向上するためにも継続かつ専門的な教育を受けることを望む生徒が多くいる。また、多岐にわたる専門的な音楽に関する活動を、普通科の中で個の教育を行うのではなく音楽科としてまとめ、互いに切磋琢磨しながら、個々の技能を向上させることは教育環境としても望ましいと思われる。他府県の状況等を考慮しても、現状通りの音楽に関する専門学科が必要であると考察する。

[課 題]

- ・個々の専門的な授業も多くあるので、楽器等の購入や入れ替え、補修と専門的な指導者の確保と配置が必要となる。
- ・多種・多様な専門種目に対応するための常勤教員の配置が必要である。

II 美術科・デザイン科

1 美術科・デザイン科の現状と課題について

(1) 県内における学科の設置状況について

学校名	学科名	定員（H29 入学者数）	特色
高 円	美術科	35名 (35名)	美術に興味・関心をもって、積極的に取り組む意欲のある生徒集団である。
	デザイン科	35名 (35名)	デザインに興味・関心があり、意欲・適性のある生徒集団である。

※定員は、1学年あたりの定員

(2) 卒業後の進路について 平成29年3月卒業生

学校名	学科名	卒業生	進学者	就職者	その他
高 円	美術科	35名	29名	3名	3名
	デザイン科	32名	28名	3名	1名

高校卒業後の進路については、大半の生徒が芸術系大学等への進学を希望している。また、本年は関東方面の大学にも多くの合格者を輩出している。

- ・美術科の進学者29名の内、芸術系大学等への進学者は26名（その他3名は浪人）
- ・デザイン科の進学者28名の内、芸術系大学等への進学者は23名（その他1名は浪人）
- ・近年は、中学校・高等学校の教員として採用される実績もある。

(3) その他

- ・美術系の学科が設置されている高校は全国にある。
- ・例年100名前後の受検希望者がおり、美術学科に対するニーズはある。また、美術・デザインに関する意識が高く、卒業後の進路は多くの生徒が芸術系・美術系の進学を希望している。
- ・土曜日や長期休業中の講習を実施して生徒の技術向上に努めている。
- ・美術科・デザイン科とも専門の授業を、週あたり1年6時間、2年8時間、3年11時間実施している。

2 美術科・デザイン科の今後の在り方について

[今後の在り方]

美術系学科を設置する高等学校は全国にあり、本県においても中学生からの期待が高いと思われる。また、在校生徒は入学当初より美術・デザインに関する意識が高く、専門学科での基礎・基本と高度な技術の習得を図り互いに影響を受け合いながら学べる環境は有効である。現在の2科70名は適切であると考えられる。

[課 題]

- ・専門的な技術指導・理論指導が必要なため継続した指導者の確保が必要である。

Ⅲ 普通科工芸コース

1 普通科工芸コースの現状と課題について

(1) 県内におけるコースの設置状況について

学校名	コース名	定員（H29 入学者数）	特色
十津川	工芸コース	30名 (12名)	森を知り、木を学び、ものづくりの技を磨き、これからの「工芸デザイン」を担う人材の育成を目指す。

※定員は、1学年あたりの定員

(2) 卒業後の進路について 平成29年3月卒業生

学校名	コース名	卒業生	進学者	就職者	その他
十津川	工芸コース	13名	4名	9名	0名

平成29年度3月卒業の進学者の内1名は、工芸コースで培った技術を生かし京都教育大学に合格した。その他、多くの卒業生は一般的な進学や就職を希望し進路を確定していく。

(3) その他

- ・平成25年、十津川高校に工芸コースが設置される。
- ・平成28年度より工芸コースの全国募集を開始する。また、当入試制度を活用した県外出身生徒2名が在籍している。
- ・地元十津川村の資源(材木)を活用した木工作品を製作している。
- ・本年度、卒業作品展・在校生作品展を村内、教育研究所及びイオンモールで開催した。観覧者からは大いに好評を得ることができた。

2 普通科工芸コースの今後の在り方について

[今後の在り方]

学校の活性化と地元十津川の地場産業復興に向けて工芸コースの設置に至った経緯がある。現在、開設より5年が過ぎようとしている。ようやく作品展を実施できるまでとなり今後につなげるべく取り組んでいるが、未だ工芸コースの認知度が低く一層の広報が必要である。十津川村からの期待も高く、ようやく実績も残しつつある工芸コースであるので、現状の形でコース設置を継続することを願う。

[課題]

- ・募集人員の確保に向けた授業内容の充実や広報等の実施
- ・全国募集の一層の活性化
- ・専門教員の継続配置

IV 普通科書芸コース

1 普通科書芸コースの現状と課題について

(1) 県内におけるコースの設置状況について

学校名	コース名	定員（H29 入学者数）	特色
桜井	書芸コース	35名 (35名)	書の学習を通して文化と伝統を学び創造性豊かな感性をはぐくみ、何事にも真剣に向き合える生徒を育てる。

※定員は、1学年あたりの定員

(2) 卒業後の進路について 平成29年3月卒業生

学校名	コース名	卒業生	進学者	就職者	その他
桜井	書芸コース	34名	34名	0名	0名

例年4年制大学進学者の内4、5名が、国語・教育系を中心として書道関係に進学している。平成29年度においては1名であった。その他の卒業生は、一般の大学・短大等に進学している。

(3) その他

- ・平成7年、桜井高校に書芸コース・英語コースが設置される。
- ・生徒募集に関わっては、例年募集定員を満たしている。
- ・各種大会等で受賞するなど群を抜く実績を誇る、近畿で唯一のコースである。
- ・書道の専門科目に加え、一般科目も十分学習できる。
- ・作品展の開催や、中国(台湾)への研修旅行を実施している。

2 普通科書芸コースの今後の在り方について

[今後の在り方]

書道を専門とした大学は無く、教育系大学等への進学が中心となる。しかし、本県における書道事情を考えると書芸コースは是非必要であると思われる。ただし、音楽科や美術科とは進学先等で異なる部分があり、現状どおり普通科高等学校でのコース設置を継続することが望ましいと考える。

[課題]

- ・専門的な指導者を各学年1名配置することが望ましい。
- ・募集定員は30名を理想とする。

V 総括

芸術系科目は、社会の変化に伴い授業時間数の減少を余儀なくされた時期があったが、いつどのような時代であっても芸術・文化は人間の心のより所として、また情操教育の柱として必要不可欠である。日常的に音楽を耳にして安らぎ、工業製品全てにデザインが施され、奈良にあっては墨の文化が未だ絶えない。殊に、世界遺産や国宝等が散在している本県にあってはなおのことと考える。

今後、専門学科等の一層の充実を願うと同時に、芸術系学科・コースにおいても課せられた責務を感じながら一層研鑽を積んでいかなければならないとも感じている。